安倍政権とメディアの変質

写真は東京新聞 6 月 28 日朝刊「こちら特報部」。参院選のなかで、「政治的に公平」が崩れていく？に注目したい。

「政治的に公平」が崩れていく？

テレビ局が流す番組は放送法４条に基づき、「政治的に公平」が大前提だ。しかし最近、この当然の事実が脅かされる事態が相次いでいる。NHKは無駄骨に終わった安倍晋三首相のイラン訪問を、さも成果があったかのように報道。民放の番組でも、単独で出演した安倍首相が年金問題で一方的に野党を批判するのをそのまま放送した。政治的公平はどこへ、政権寄りの姿勢が強まった観がある。NHKに対しては、戦争が起きたら「大本営発表を流すだろう」と往時の悪夢を懸念する声さえ上がり始めた。（中沢佳子、佐藤直子）

各国酷評の外交、NHKは擁護

年金問題、首相一方的に野党批判

最近、特に目に余ったのは、NHKの安倍晋三首相イラン訪問を巡る報道だ。

今月中旬、日本の首相として41年ぶりにイランを訪れた安倍首相は、トランプ米大統領の意向を踏まえ、ロウハニ大統領や最高指導者ハメネイ師と会談し、対立を深める米国との対話に応じるよう要請した。だが、ハメネイ師は「米国は信用できない」と会談後の声明で一蹴。訪問中にホルムズ海峡付近でタンカー攻撃も起き、米国とイランの関係は訪問前よりむしろ悪化した。

どうひいき目に見ても成果ゼロ。米紙ウォールストリート・ジャーナルは「中東和平の調停役としてのデビューは厳しい結果に終わった」と酷評、仏紙ルモンドも「ドナルド・トランプのイラン特使」と首相を皮肉った。

しかし、NHKは現地まで同行した解説委員が13日の「ニュース7」で「ハメネイ師が外国の首脳と会うことは多くなく、（中略）安倍首相の助言を重視している」「イラン側の真意を引き出すことができた」と、まるで成果があったかのような説明をした。

政府見解そのままの内容に、ネット上では批判が殺到した。以前からNHKの政治報道を問題視してきた作家の平野啓一郎氏もツイッターで「日本が今戦争になったら、NHKは大本営発表を流すだろう」と危ぶんだほどだ。

「若者ねらう 首相のSNS術」、「安倍外交」八方ふさがり、安倍政権の「手のひら返し」をレポートしてきたが、NHKをはじめとしたメディアの変質にも目を向けたい。

（2019年7月9日）